

公同礼拝

2025年2月2日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 姜 徑米

奏楽 河野和雄 長谷川ゆり子(夕)

前 奏

招 詞 詩編 58編12節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 88編14～19節 (旧925)

マタイによる福音書26章30～46節

(新53)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 310

説 教 「心は燃えても」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 205

聖 餐 式

献 金

頌 栄 544

祝 禱

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

2月の祈り

主が共におられることに支えられ、今のこの時代に信仰によって生かされている、その恵みを覚えることができるように。

新たな歩みに進み出す若い人々が主の愛と人々の祈りに力付けられるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。痛みを負う人々に慰めといたわりが与えられるように。

世の指導者たちが神をおそれ正しい判断をすることができるように。

今日の祈り

生きる時の悩み、寂しさ、衰えにあっても日々新たにされる恵みを数え、見えないものに目を注ぐことができるように。

主の聖餐に与る恵みを喜び、教会が主の体のえだである自覚を持ち、一つとなって伝道の使命を果たすことができるように。

寒さ厳しい中であって、病を負い、弱っている人々が守られ、力づけられるように。

「心は燃えても」 高橋和人

マタイによる福音書26章30～46節
わたしたちの信仰は弱いもの。少しのことを身に着けるのにも時間がかかり、その一方で心熱くしたものがいつの間にか冷めてしまう。少しの躓きが深い傷を残し、信頼が不信に変わる。信仰がわたしのものならば、確かさはない。信仰の確かさは与えられた確かさだ。聖餐の恵みは与る恵み。洗礼以降どれほどこの恵みに与って来たことか。主は讃美を歌い祈りの場に向かわれる。

主イエスは「今夜、あなたがたは皆わたしに躓く」と言われた。主を信じる信仰には躓きを乗り

越えることが必要だ。主は復活の後にガリラヤに先に行かれる。出発点、原点だ。信仰は生涯の全体を。主に出会った人生にする。

ペトロはつまづかないという。主はそこにある弱さをも御存じだ。主はこの弱さを負って祈られる。人としての姿によって。弟子たちを連れ、さらにペトロとアンデレを伴いその先で祈られる。「わたしは死ぬばかりに悲しい。ここを離れず、わたしと共に目を覚ましていなさい。」と言われ、悲しみに身もだえされた。うつ伏せに這いつくばり「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの願いどおりではなく、御心のままに。」と祈る。

弟子たちは眠っている。主は「誘惑に陥らぬよう、目を覚まして祈っていなさい。心は燃えても、肉体は弱い。」と言われた。

そして「父よ、わたしが飲まないかぎりこの杯が過ぎ去らないのでしたら、あなたの御心が行われますように。」と祈られた。父との壮絶な祈り。それは今も続く執り成しの祈り。弟子たちはひどく眠く、眠っていた。三度の祈りと弟子たちの眠る姿が繰り返される。主はそこから立ち上がり進まれる。

主は三度祈り、ペトロは三度否む。誘惑に弱い人の姿だ。パウロもまた自分の痛みに三度祈った。三度は回数よりも度合いになる。底に着くほどの深さだ。主はその深さを這いつくばるほどの祈りによってご自分に負われる。

聖霊がうめきをもって執り成すのは、このような人の弱さと嘆きを負われるからだ。主が真の神であり真の人であることは、この祈りの姿に表される。それが弱いものの信仰を支える。